

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	672600350
法人名	有限会社 葉山
事業所名	グループホーム はやま荘
訪問調査日	平成 20 年 11 月 7 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 7 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	672600350		
法人名	有限会社 葉山		
事業所名	グループホーム はやま荘		
所在地 (電話番号)	山形県東置賜郡高島町大字高島530-1 (電 話) 0238-52-5451		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年11月7日	評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】(平成20年10月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 23 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤	人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築/改築
建物構造	木 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	350 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月3日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高島公立病院・宮田医院・粕川医院・つちや歯科・金子皮膚科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「心かよう信頼と安心の介護」を理念として、利用者がその人らしく楽しく笑顔で過ごせること、家族同様のつながりをもてること、地域の一員としても暮らせることなどを目指しながら、運営者、管理者、職員がともに協力して利用者支援に取り組んできています。
また、ホームの「愛犬」と生活を共にできていることは、利用者をより生き生きとした姿へと導き、一人ひとりに「生活意欲の向上」や「癒し」をもたらしてくれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>グループホーム置賜ブロック会に参加しており、ネットワークづくり、勉強会、交換実習を通じた、サービスの質の向上への取り組みが進められている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解しており、今回の自己評価も全職員でまとめている。また、前回の評価結果を踏まえた話し合いも全職員で行われ、改善への取り組みが進められている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、利用者やホームの現況報告、行事予定の連絡、外部評価への取り組み状況報告、看取りについての話し合い、ホームの特性や意義の確認、新設事業所への要望についての意見交換等が行われており、利用者へのサービス向上にもつなげられている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議に加え、家族の面会時や2ヶ月に1度開かれる家族会の際に出された意見、不満、苦情などが会議等で検討されており、その内容を運営やサービス向上にも反映できている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営者、職員は、認知症高齢者やグループホームが地域により理解されることを目指しながら、町の敬老会や行事への参加、ボランティアの受け入れなどを通して、地域との交流に取り組んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から地域に密着したグループホームを目指しており、地域の中で利用者がその人らしく安心して生活できるよう、心かよう信頼と安心の介護を理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と理念に沿った心構えが明示され、また毎朝の申し送り時や毎月の会議時に繰り返し唱和することにより意識付けを行いながら、管理者、職員が一体となり理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者、職員は、認知症高齢者やグループホームが地域により理解されることを目指しながら、町の敬老会や行事への参加、ボランティアの受け入れなどを通して、地域との交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解しており、今回の自己評価も全職員でまとめている。また、前回の評価結果を踏まえた話し合いも全職員で行われ、改善への取り組みが進められている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やホームの現況報告、行事予定の連絡、外部評価への取り組み状況報告、看取りについての話し合い、ホームの特性や意義の確認、新設事業所への要望についての意見交換等が行われており、利用者へのサービス向上にもつなげられている。		

山形県 グループホームはやま荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場が道路を挟んで事業所の向かいに位置していることもあり、役場担当者とは常に行き来しながら指導や協力を得ている。また、高島町高齢者虐待防止連絡会にも参加して、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや職員の異動については毎月発行されている「はやま荘だより」等で、健康状態は受診時や状態変化があった際に電話で家族に伝えられている。また、金銭管理状況を出納帳に記録し、面会時の家族の確認、遠方の家族への写しの郵送が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に加え、家族の面会時や2ヶ月に1度開かれる家族会の際に出された意見、不満、苦情などが会議等で検討されており、その内容を運営やサービス向上にも反映できている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職を事前に利用者説明しており、余裕をもって引き継ぎをすることにより、利用者へのダメージを防ぐように配慮している。また、ユニット合同で行事を行ったり、普段から挨拶を交わしたりすることにより、馴染みの関係がつけられてきている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成についての年間研修計画が作成されており、職員の段階に応じた職場内・外の研修、復命書と伝達講習による研修報告が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム置賜ブロック会に参加しており、ネットワークづくり、勉強会、交換実習を通じた、サービスの質の向上への取り組みが進められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者にも得意分野で力を発揮してもらいながら、「利用者は人生の先輩である」という考えが職員間で共有されている。また、感謝の気持ちを伝えたり、傾聴したりしながら、ともに支えあえる関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向が把握されており、困難な場合でも表情から読み取ったり、家族から情報を得ながら本人本位に検討できている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人、家族の意見や希望を聞きながら、検討会議で十分に話し合いを行って作成されており、また、本人や家族への提示と同意確認もなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの介護計画見直し、また、状態変化時の随時の見直しがともに行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人、家族の希望を受け入れ、それぞれのかかりつけ 医に受診できるように支援されている。また、事業所の 協力医による往診(内科・歯科)や連携を通して、適切 な医療が受けられるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化や終末期の対応について、本人や家族、かかり つけ医と相談しながら方針の共有を進めている。また、 家族会での看取りについての話し合いや職員研修にも 取り組んできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者への言葉かけや対応の面で一人ひとりの誇りを 損なうことがないように注意している。また、守秘義務の徹 底、記録の管理方法、写真掲載時の承諾などの配慮も なされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気分や体調、希望に配慮しながら、入浴、食 事時間、散歩などの対応が柔軟に行われている。		

山形県 グループホームはやま荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくり、食事の準備、味見、片付けなどを利用者と職員と一緒に行うようにしている。また、弁当持参でみんなで出かける、寿司職人来てもらい利用者の前でお寿司を握ってもらう、外食を取り入れるなど、食事がおいしくて楽しいものとなるよう取り組まれている。運営者、管理者、職員も同じテーブルで食事をしながら支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望、生活習慣を大切にしたい入浴支援が行われている。また、楽しんで入浴してもらえるように「のれん」や「入浴剤」を用いたり、同性の利用者同士と一緒に入浴することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ピアノ、家事の手伝い、野菜作り、花の水かけ、庖丁とぎ、干し柿づくり、広告の切り貼りなど、一人ひとりの生活歴や特技を活かした役割をもってもらい楽しみや気晴らしの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季折々の外出、ドライブ、散歩、買い物など、季節を五感で感じながら気分転換が図られるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、自然な形での見守りが行われている。また、外に出て行こうとする利用者にはさりげない声掛けや一緒に外に出てみる関わりが行われており、危険がないよう配慮しながら、利用者の自由な暮らしが支援されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得た年2回の避難訓練、地震対策としての家具等の固定、運営推進会議や近隣に対する協力依頼、警備会社への非常時通報システムなどの対策は講じられているが、夜間を想定した訓練は行われていない。	○	利用者がより安心して生活できるよう、夜間を想定した避難訓練の実施も期待される。

山形県 グループホームはやま荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事と水分摂取状況が把握されており、また、外部の栄養士による献立内容のチェックも行われ、栄養面での偏りが無いよう配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファ、コタツなどが置かれ、一人ひとりが思い思いに過ごせるようになっている。また、光やテレビの音量、室温なども、利用者が快適に過ごせるようその都度調整されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた椅子や家具、家族の写真などが居室内に持ち込まれており、居心地よく安心して過ごせるよう配慮されている。		